

こだわりの「謙信からむし手拭」

生地、捺染、縫製仕上げまで日本製



新潟県上越市にある有限会社セラフ（川上隆広社長）が発売する「謙信からむし手拭」が新潟県内で人気となっている。和苧（からむし）は、イラクサ科に属する宿根草の植物で、青苧（あおそ）とも言われ、江戸時代から織られている新潟県の伝統的な織物。同社では和苧を使った手拭を5月上旬から販売した所、問合せが多数寄せられている。高田の夜桜をイメージした6種類の「謙信か

らむし手拭」をセラフがデザイン、同県十日町で衣料品の企画販売する有限会社ネオ昭和（村山好明社長）が調達した和苧を京都の織物会社が制作した。川上社長は、上越市での観桜会で販売して手ごたえを感じたという。

中世の越後（新潟県）は、日本一の和苧の産地で戦国大名の上杉謙信はこれを衣類の原料として日本海ルートで全国に広め、磐石な財政基盤を築いたと言われる。米沢に移封された上杉家は、初代藩主景勝の執政直江兼続が米沢で

和苧の生産を奨励した。

和苧は繊維の特徴として通気性がよく、夏には清涼感があり、ダニを寄せ付けない、カビが生えない、無農薬栽培等の特徴を有して、アレルギー体質の方にも適している。材質は和苧50%、綿50%。サイズは36センチ×90センチ。生地、捺染、縫製仕上げまですべて日本製でこだわりの「からむし手拭」となっている。セラフは、この歴史とロマンに満ちた繊維を独自の技術で現代に甦らせた。川上社長が運営するコーヒー店「セラフスローカフェ」で扱っている。小売り価格 1200円（税込み）販売元 有限会社セラフ 新潟県上越市土橋1936-19 FAX0201466415194